

学校目標・経営方針	◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成 ◎広い視野をもち、地域社会の形成にすずんで参画できる生徒の育成
-----------	--

本年度の重点目標	1. 魅力ある授業の工夫をとおり、学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかる。	達成度 A ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割未満)
	2. 日々の教育活動をとおり、良好な人間関係と規範意識の醸成をはかる。	
	3. キャリア教育を推進し、各々の適性に応じた進路の実現をはかる。	
	4. 笛吹市との包括連携等を活かして、地域課題に取り組む意識と行動力を育てる。	

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価					
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	年度末評価(2月1日現在)	
				自己評価結果	達成度
1	生徒理解に努めながら学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかり、魅力ある授業づくりに向けた授業改善の工夫	単元などをまとまりとした評価シートを作成し、授業を通して身につけた力を生徒に評価させ、学習方法の改善や学習意欲の向上を図る。また、それを授業改善や個に応じた指導に役立てる。 「やまなしスタンダード」7つの視点の実践に向け、相互授業参観等を通じ、教科を超えて学び合い、魅力ある授業づくりにチームとして取り組む。 年度初めの二者懇談や「今未来手帳」の活用を通じて、学習状況等の把握に努める。また、生徒に学習目標を持たせ学習意欲を喚起する。	【授業アンケート】 【評価シートの活用状況】 【授業アンケート】 【相互授業参観の状況】 【二者懇談の状況】 【今未来手帳活用状況】	B	○笛吹GP「学ぶための基礎力」に該当し教科的な視点からも「社会で生きる力」の涵養を図った。○「授業アンケート」「相互授業参観」を継続実施し、主体的に取り組める授業展開や指導の改善を行った。○基礎学力不足や成果が中々得られない生徒へ、個別指導や定期学業前学習会、授業での振り返り学習を実践した。○やまなしスタンダードに則り、授業目標の明示、classroom等を利用した達成度の自己評価を行った。○個別懇談で、学習成績や課題提出状況等について、生徒○保護者と情報を共有し連携した指導を行い、学習習慣の定着と課題改善に繋がった。○「今未来手帳」をキャリアパスポートの手段として、記録や振り返り、部活動での活用を促した。
2	良好な人間関係と規範意識の醸成を目指した、日常的な教育活動の工夫	挨拶指導の徹底や言葉遣い・聞き方の指導を通じて、社会の中で良好な人間関係を作り上げるための基本的マナーを身につけさせる。 学校行事・部活動・地域交流など、多くの人と関わり合い良好な人間関係を形成する場面を設ける。 教職員間の共通理解及び保護者との連携を図り、良好な人間関係と規範意識を醸成する。	【登校指導の実施】 【学年・学科集会など様々な場面での指導】 【部活動の活性化】 【学校生活の充実感】 【地域交流の活動状況】 【教職員間の情報共有】 【保護者への情報発信】	B	○身につけてほしい資質・能力の育成に取り組み、生徒が主体的に自己評価を行えるよう、求める力を具体化、可視化した。○定期的な行事により、マナーの向上、挨拶習慣の定着、安全意識の向上を図った。生徒とのコミュニケーションを大切に個々の声を聴くよう努め生徒理解と信頼関係を深めた。○人との関わりを避ける生徒が多い感があったが、様々な活動を通して積極的に行動する姿が見られた。○探究活動を通して地域社会に目を向けるきっかけとなった。友好都市ドイツの高校とオンライン会議を実施し生徒間交流の土台作りができた。○学園祭や多くの学校行事へたくさんの保護者から熱心な協力をいただいた。○部活動を通して、自身や家庭・地域・社会とのつながりに対する意識が芽生えた。また、他者に対する礼儀やマナーの向上にも繋がった。
3	各々の適性に応じた進路を実現するためのキャリア教育の実践	「総合的な探究の時間」「課題研究」「産業社会と人間」での探究活動を通して、外部機関等と連携しながら効果的なキャリア教育を行う。 インターンシップやオープンキャンパス等を有効に活用し、社会の一員としての職業観を養い、将来の職業選択の基盤を作る。 土曜講座、長期休業課外、小論文講座、各種検定など生徒のニーズに応じた学習機会を設け、積極的な参加を促す。 生徒や保護者への情報提供を充実させ、進路意識や目的意識を高める。	【地域社会への関心度】 【事前・事後指導の充実】 【多様な学習機会の提供】 【計画的な進路ガイダンスの実施】 【各種便り、HP等の充実】	B	○魅力ある学校づくりにあたり、教科横断型、かつ、3年間の継続的な探究活動を意識した「総合的な探究の時間」の計画を提示した。教育課程の特例に係る研究開発学校へのアプローチとともに、学校をあげて生徒の学びに向かう姿勢と学びへの主体性を育む実践的な取り組みを行う。○インターンシップは、職業観を涵養し、社会性を身に付ける機会であるが、1年生全員の一斉実施は、運用面でリスクが大きいため、学科ごとに実施している現場実習や体験学習などを充実させ分散実施する方法も検討する。○土曜講座や長期休業課外等は、生徒・保護者からの期待が大きい反面、時間的に部活動との両立が難しいため、内容や実施回数などを教科と連携して検討する。○総合的な探究の時間の「地域の課題解決」演習では、実践的な学習ができたことにより地域や課題解決に対する関心向上につながったことが、生徒の会話の一端や進路希望等からも窺えた。○土曜講座等の学習機会だけでなく、BYOD等の活用を通して、家庭で自主的に学習に臨めるよう学習法や教材についても情報提供を充実させる。
4	具体的な学習の場面において、学んだことを積極的に生かし、他者と連携・協働しながら課題解決する力を育む	地域の行事を積極的に伝達するとともに、その行事等へ自主的に取り組み、社会参画の場を工夫して成就感や自信が持てる実践的な活動を行う。 ウエルカム笛吹・フェスタ笛吹の行事を通じ、地域社会の一員としての所属感や連帯感をさらに強く持てるよう育成する。	【生徒会活動の充実】 【広報活動の充実】 【笛吹市との包括連携による活動】 【フェスタ笛吹への主体的な取り組み】 【外部への積極的なPR】	B	○創造力の源となる「学びを広げる応用力」の育成を各教科の視点に基づいて行い、多様なものの見方や考え方を身につけ、社会を生きる力、自分の意見を発信するための材料、情報活用能力を伸展させる。○地域が抱える問題を深く知るきっかけとなり、地域社会を今までは違う目線で見られる生徒が増えた。包括連携の取り組みを学校全体で共有できる環境を充実させる。○日常生活(地域)において中高生が地域の方々と係る機会が少ない中、これらの行事は貴重なため、多くの生徒が参加できるよう検討する。○行事の設定において、生徒の自発的な意見を尊重し、様々な人と協働・協調する機会を設け、言語的活動を充実させることで自己の確立を促す。

学校関係者評価	
実施日(令和5年2月15日)	
評価	意見・要望等
3	○生徒一人一人を非常に大切に育て見守っている様子が伺えた。○生徒自身に「身につけた力」を評価させ、学習意欲や改善を行うことは生徒のやる気を喚起する意味においても有効である。○主体的な自己評価が更なる成長へつなげられる生徒は良いが、苦手な克服できないまま否定的な自己評価やあきらめに繋がるリスクのある生徒も存在すると思う。そのような生徒に対して、スモールステップの小さな目標を明確にする支援、自己評価が達成感に繋がるような配慮を行ってほしい。○個の把握や対応が必要不可欠になる。有効なツールを活用し、引き続き魅力ある学校づくりに努めていただきたい。○先生方が日々授業改善に取り組まれているが、学習習慣の定着は、学ぶ楽しさを体感することや仲間と切磋琢磨する体験に裏打ちされるため、授業の工夫と生徒同士の学び合いを更に活性化させていただきたい。
3	○日常的に生徒たちの挨拶や生徒と先生方とのやりとりに触れ、生徒との関係形成に心を配られている様子が伝わる。保護者との協働による教育活動の充実が更に図られていくのだろうと期待が高まった。○冬季、教室で生徒が上着を着て授業を受けており、学校全体で節電に努めている姿勢に感心した。○「コロナ禍の影響と思われるが、人との関わりを避ける傾向がある生徒が増えている」という報告が気になった。人と関わる楽しさや人間形成の上で学ぶ事が多いことを伝えてほしい。○学校評価アンケート(教員・生徒・保護者)の「いじめの未然防止・早期発見の対策」の回答について、教職員と生徒・保護者の評価に乖離が見られる。SOSを発信できる生徒に関しては保健室や教育相談等が非常に機能しているが、いじめの予防的対応は日々のきめ細やかな観察や、生徒がちょっとしたことでも相談しやすい雰囲気づくりが大切なため、これまで以上に環境・土壌づくりに努めてほしい。
4	○系統的に実施されている「総合的な探究の時間」の取り組みは、これからの社会を生きていく生徒にとって非常に有効な活動である。○生徒自身で長期的な進路を決めるのは難しい事だと思うが、笛吹高校は生徒に色々な経験をさせ進路について考える機会を多く設けている。インターンシップや現場実習、笛吹市役所とコラボした市の課題解決の提案等、実践的な学習は地域に対する関心や興味、疑問を持つことに繋がり、大いに探究心が駆り立てられていると思う。○生徒にも教職員にも達成が求められる日々の「課題」が多く大変だと思うが、生徒が自分の描く将来とその視点から見た現在についてじっくり考える機会の大切さを改めて感じさせられた。○業務や生徒育成に手いっぱいになりそうな現状とは思うが、今後、キャリア形成に係るワークショップの実施などに関与できないか検討してほしい。○高校は生徒と社会との橋渡しを担う役割を大いに担っていただきたい。探究活動やキャリア教育に力を入れている笛吹高校は、社会で活躍できる人材育成に貢献していると思われる。
4	○生徒が身につけた力を具体的に実践し応用力を育成する学びは、実社会において対面する出来事に最も近い学習であり、社会をたくましく生きていく力を育成する実践の場として、非常に意義ある企画である。○ボランティア活動や市商工会等との取り組みは、地域社会を知り興味を持つ機会となり社会生活の実践的な学習である。○「マルシェ笛吹」で大勢の来場者に対し、生徒が積極的に話しかけ、学びの成果を一生懸命伝えている姿に感心した。多くの学びを有する笛吹高校は、地域の人たちと親密な関係が築けており、生徒の活躍や成長に対する地域からの期待の大きさが伝わってきた。○あらゆる場面で生き生きと活動している生徒が目立つ一方、コミュニケーションが苦手であろう生徒も、自分の置かれた場所で自分のペースでチャレンジする姿が見られた。その努力を周囲が認め適切にフィードバックすることで次への自信に繋がってほしい。○地域との連携は社会参加の第一歩であり、社会で何らかの役割を担うことに積極的な若者を育てる笛吹高校の教育活動への期待がますます高まっている。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。